

令和2年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

生徒の多様性を尊重し、一人ひとりの成長に寄り添う指導を行うことにより、常に変化する社会の中で、様々なかたちで社会とかかわることができる人を育てます。

多部制単位制の柔軟な教育システム、きめ細かな学習指導と教育相談により「4つの力」を育みます。

1. 学び続ける力：主体的かつ継続的に学習に取り組み、努力できる。
2. 他者と関わり生きていく力：自分を大切に思うとともに、他者を理解し、思いやりの心を持って行動できる。
3. 課題を乗り越える力：さまざまな課題に向き合い、計画を立てて解決できる。
4. 自分の将来を考える力：自らの可能性と生き方を見つめ、将来を切り拓いていくことができる。

2 中期的目標

1 「学び続ける力」

- (1) わかる喜びやできる楽しさを実感できるよう、生徒一人ひとりの課題を把握した学習支援をすすめる。
- (2) すべての生徒が積極的に授業に出席し、基礎学力の定着や主体的に学びあう授業づくりをすすめる。
- (3) 教員間での相互授業見学、授業研究に向けた研修を通して、教員の授業力向上を図る。

学校教育自己診断における生徒の学習満足度 78%以上（勝山高校 H29：64.1% H30：73.8% R1：77.1%）

2 「他者と関わり生きていく力」

- (1) すべての生徒が安心して学ぶことができるようスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等の外部人材との連携により、きめ細かな教育相談体制を構築する。
- (2) 社会生活を営むうえで必要なルールやマナーを習得するとともに、ソーシャルスキルトレーニングを活用して、必要なコミュニケーション能力を高める。
- (3) 自分の個性を大切にしながら、お互いの個性を尊重する思いやりの心を育む。
- (4) ボランティア活動、地域連携などの取り組みにより、自己肯定感・自己有用感を高める。

学校教育自己診断における生徒・保護者の教育相談満足度 78%以上（勝山高校 H29：65.8% H30：73.8% R1：76.4%）

3 「課題を乗り越える力」

- (1) すべての教育活動において、自ら考える力を育み、ソーシャルスキルトレーニングを活用して、課題を一つひとつ解決する力を高める。
- (2) 生徒一人ひとりの背景を把握し、外部人材も活用しながら自ら課題解決に向かう力を高めるよう支援する。

4 「自分の将来を考える力」

- (1) インターンシップや職場見学を通して実社会を体験する機会を設けるなどキャリア教育を充実させ、将来を見すえた進路指導を行う。
- (2) 生徒一人ひとりが希望する生き方や進路を実現できるよう、入学時から組織的・計画的にキャリアプランニング能力を高める取り組みをすすめる。

学校教育自己診断における生徒の進路学習及び進路情報に対する満足度 78%以上（勝山高校 H29：66.9% H30：73.9% R1：75.9%）

5 信頼される学校

- (1) 家庭や地域との連携強化をすすめ、本校の教育活動への理解を促進するための広報活動の充実を図る。
- (2) 教職員が、心身共に健康な状態で生徒と向き合うことができるよう、学校における働き方改革の取り組みをすすめる。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和2年11月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>全体的に予想より肯定的な回答が上回った。新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも、自分のペースで学べる多部制単位制のしくみの特徴が現れたと思われる。生徒の結果における学習・評価に関しての肯定的回答は、「評価の仕方や基準について事前に知らされている」94%、「学習の評価について納得できる」85.7%、「学習で自分が努力したことを認めてくれる」87.9%と高くなっている。また学校生活全般においては、「大阪わかば高校に入学してよかった」82.1%、「個人情報についてプライバシーが守られている」92.5%、「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」80.8%となっている。保護者の結果については回収率が25%と低かった。今年度は勝山高校と同様な配付回収方法を取ったが、単位制の大阪わかば高校では配付回収方法を考慮する必要があった。来年度に向けて検討中である。回収率は低いながらも、保護者の肯定的回答が高かったもののうち、「大阪わかば高校に入学させてよかった」100%は、コロナ禍の中、勝山高校と併存しながら新しいシステムの学校を開校するにあたり教職員の苦勞も並大抵ではなかったが大変喜ばしい結果である。続けて肯定的回答が高かった項目は、「学校が保護者に出す文書・事務連絡等は適切である」91.3%、「子どもは学校に行くのを楽しみにしている」88%、「子どもの心身の健康について気軽に先生に相談できる」83.4%となっている。教職員の結果についても、教職員同士で教育活動について日常的に話し合い評価を行う、教育相談体制の整備、いじめ等に迅速に対応することができる等の項目で肯定的な回答が高くなっている。これらの結果は、開校初年度において、めざす学校像に向けて学校全体で取り組んできたことの現れであると思われる。</p>	<p>【第1回7月29日】 新校の立ち上げは本当に大変である。これまでにないスタイルの公立高校であり、いろいろなことが試せる。一方で長く伝統のあった勝山高校の生徒をどのように社会へ送り出していか、そのノウハウをどのように生かすか、その苦勞がつまっている学校経営計画と感じた。双方向オンラインについて活用してほしい。今まで勝山高校が培ってきた1対1の生徒との関わりの大切さを今後も引き続き、オンラインと同時に1対1の指導も大切に続けてほしい。先生方が目標を掲げて頑張っているのがよくわかる。地域としては全面的に協力していきたい。キャリア教育について、出前授業の要望があれば区役所として対応する。</p> <p>【第2回12月22日】 保護者からの学校教育自己診断の提出率が低いことは、クラウドサービスなどの活用でスマートフォン等で行えるようにしてはどうか。学校教育自己診断（大阪わかば）の保護者の結果で提出率は低いながらも「大阪わかば高校に入学させてよかった」の肯定的回答が100%なのは大変良い要素である。生徒が人生に困ったとき、必要な情報に辿りつけるかが重要。つまり、生徒が助けを求め力をつけることが必要であり、ソーシャルスキルトレーニングはその力をつけるひとつなので教員は大変だと思うが継続してほしい。コロナ禍においても、感染症予防対策をしながら、文化祭・体育祭など学校行事を確保されているのはありがたい。教務部がオンラインを活用して教員間の情報共有を行っているとの報告があった。大変良い取り組みであり生徒にも反映させてほしい。オンライン授業は、学校に来れない生徒も学べる良い方法である。大学では、オンライン授業を行うことで遅刻・欠席が減少した。業務の効率化と新しい学びに繋げてほしい。ネットリテラシーを身につけさせることは喫緊の課題である。勝山・大阪わかば高校は、面倒見が良い。中学校への情報提供をさらに積極的に行ってほしい。</p>

府立大阪わかば高等学校

	<p>【第3回3月17日】</p> <p>新型コロナウイルス感染症による休校で2ヶ月抜けているなか、温かく生徒を送り出せたことはよかった。保護者の学校教育自己診断の結果と生徒の結果を紐づけると教員の指導力向上につながるのではないかと。教員同士の関係性も今以上に築いてほしい。新型コロナウイルス感染症の影響、その中での新校の開校と予測不能なことが多い中、教員の頑張りや生徒に伝わっている。生徒たちがさまざまなことに挑戦するのは周りの環境も大事である。教員もまたしかり。勝山高校があと1年で閉校になることは大変寂しいが大阪わかば高校にも協力していきたい。教員の尽力で卒業生の満足度が高く進路未決定も少ないことは素晴らしいこと。これは教員の挑戦する姿勢が生徒にも伝わっているのでは。生徒たちが主体的に学ぶことが今後さらに重要になってくる。今年度の大変だったことを来年度に活かしてほしい。中学校から送ってお世話になった生徒が「生きる力」を身に付けたことを嬉しく思うとともに感謝します。</p>
--	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 「学び続ける力」	<p>(1) わかる喜びやできる楽しさを実感できるよう、生徒一人ひとりの課題を把握した学習支援をすすめる。</p> <p>(2) すべての生徒が積極的に授業に出席し、基礎学力の定着や主体的に学ぶ授業づくりをすすめる。</p> <p>(3) 教員間での相互授業見学、授業研究に向けた研修を通して、教員の授業力向上を図る。</p>	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習到達度別の選択科目の設置、習熟度別・少人数での授業展開を行う。 ・ICT 機器を積極的に活用し、わかりやすい授業づくりを推進する。 <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安心して授業を受けることができるようルール・マナーを大切に授業環境を整える。 ・授業に出席することの大切さのわかる授業づくり、評価の工夫を行う。 <p>(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学期ごとに授業見学週間を設定し、授業見学シートを活用する。 ・他校の公開授業や授業研究会等の研修への参加を奨励する。 	<p>(1)(2) 生徒向け自己診断において</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「授業はわかりやすく、内容に満足できる」70%以上 ・「教え方に工夫をしている先生が多い」70%以上 <p>・「授業では積極的に学ぼうと思うような環境が保たれている」70%以上</p> <p>・「先生は学習で自分が努力したことを認めてくれる」75%以上</p> <p>・「学習の評価について納得できる」75%以上</p> <p>(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業見学週間の授業見学回数を2回以上、授業見学週間以外も含め学期に授業見学シートを3枚以上作成 	<p>・「授業はわかりやすく、内容に満足である」66.2% ()</p> <p>・「教え方に工夫をしている先生が多い」68.6%であるが、「授業などでビデオ、スライドなどの視聴覚機器やコンピュータなどを活用している」94.1%という結果も合わせて達成したと考える。()</p> <p>・62.2% ()</p> <p>単位制のシステムに慣れない生徒もいる中、新型コロナウイルス感染症の影響で入学時のオリエンテーションが十分にできなかったため、授業をすすめるながら授業環境を整えるためのルール・マナーの指導を丁寧に行ってきた。後期の授業ではほぼ環境が整ってきている。入学時のオリエンテーションの重要性を感じている。</p> <p>・87.9% ()</p> <p>・85.7% ()</p> <p>評価に関しては、評価基準を丁寧に示したことにより生徒体にも十分に伝わっていると思われる。</p> <p>・休業等により、1学期は授業見学週間を設定できなかったが、2学期には授業見学月間を設定、3学期の授業見学週間は臨時休業と重なった。授業見学シートは、平均して2枚、6枚作成の教員もあった。シートの交換で授業について意見交換がすすんだ。()</p>
2 「他者と関わり生きていく力」	<p>(1) すべての生徒が安心して学ぶことができるよう SC、SSW等の外部人材との連携により、きめ細かな教育相談体制を構築する。</p> <p>(2) 社会生活を営むうえで必要なルールやマナーを習得するとともに、SST を活用して、必要なコミュニケーション能力を高める。</p> <p>(3) 自分の個性を大切にしながら、お互いの個性を尊重する思いやりの心を育む。</p>	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校生活支援カード'を活用するとともに、中学校・家庭・専門人材・福祉等の関係機関との連携を深め、課題を教職員が共有し、外部人材との協力により教育相談体制を構築する。 <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すべての教育活動において、社会のルールやマナーを学ぶ機会をつくりながら、SST をすすめる。 ・SST はその時間だけのものにならないよう、全教員が SST について理解を深める。 <p>(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自他を大切にすることを育むために、3R を大切にすることをすすめる。 ・人権学習や外部講師を招いた講演会を企画する。 	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒・保護者向け学校教育自己診断の教育相談満足度75%以上 ・生徒向け学校教育自己診断の入学満足度70%以上 <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒向け学校教育自己診断「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」70%以上 <p>(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒向け学校教育自己診断「人権について学ぶ機会がある」70%以上 	<p>・生徒・保護者ともに、気軽に先生に相談できる、困ったことがあれば真剣に対応してくれるという項目に肯定的回答が高く、78.7% ()</p> <p>・生徒の入学満足度は82.1% ()</p> <p>生徒の課題について中学校はじめ関係機関との連携を迅速に行った。ケース会議を適宜行い外部人材の協力・助言をいただき、教職員で共有した。今年度は多くの事案があったが対応することができた。次年度もさらに体制を整える。</p> <p>・80.8%という結果であった。SST を通して他者との関わりについてより考える機会をつくることのできた。SST の振り返りから生徒たちの成長を確認し次年度に生かす。全教員が理解を深めるために教員間での共有の時間を確保していく。()</p> <p>・80.8%という結果であった。ほとんどの生徒たちが1年間継続して3R を意識して学校生活を送ることができたと考えられる。次年度も継続して3R を大切にすることをすすめる。外部講師を招いた講演会は、新型コロナウイルス感染症の影響で企画が難しかったが、年末になってから行うことができた。()</p>

府立大阪わかば高等学校

3 「課題を乗り越える力」	<p>(1)すべての教育活動において、自ら考える力を育み、SSTを活用して、課題を一つひとつ解決する力を高める。</p> <p>(2)生徒一人ひとりの背景を把握し、外部人材も活用しながら自ら課題解決に向かう力を高めるよう支援する。</p>	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合的な探究の時間において計画的にSSTを実施する。 ・SSTについて教員研修を実施する。 <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員間で生徒の状況を共有しながら、SC、SSW、CCと連携して生徒支援を行う。 	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合的な探究に時間において計画的にSSTが実施できたか。 ・SSTについての教員研修の振り返りがどうであったか。 <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ケース会議や、外部人材との連携により支援が適切に行われたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の影響で、前期は教育産業による教材の提供がなかったため、教員で教材を作成し、年間計画通りSSTを実施した。() ・新型コロナウイルス感染症の影響で、SSTについて専門家からの教員研修が1月の1回だけとなったが、校内では担当教員で打ち合わせや勉強会を定期的に行ってきた。SSTの成果はすぐに見えるものではないうえ、教員も試行錯誤の中すすめている。継続性が大切なものであるため、教員間でも意見交換を十分しながら次年度に向けてすすめていく。() ・SC、SSW、CCとの連携が大変うまく行われた。ケース会議だけでなく、生徒や保護者対応にも外部人材の力を借りて生徒支援を適切に行うことができた。次年度も体制をさらに整える。()
4 「自分の将来を考える力」	<p>(1)生徒一人ひとりが希望する生き方や進路を実現できるよう、入学時から組織的・計画的にキャリアプランニング能力を高める取り組みをすすめる。</p>	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入学時より個別面談を丁寧に行い、一人ひとりの興味・関心を引き出し、それぞれの生活スタイルやベースに合わせて将来について考える力をつける支援をする。 ・外部講師、地域人材などを活用し、生徒の進路意識を高める取り組みをすすめる。 	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒向け学校教育自己診断「将来の進路や生き方について考える機会がある」60%以上 ・生徒向け学校教育自己診断「学校は、進路についての情報を知らせてくれる」70%以上 ・外部講師、地域人材などを活用した講演会や交流などの回数および内容。 	<ul style="list-style-type: none"> ・SSTの成果、また様々な体験のある職業人から話を聞く機会を設けたことも考える機会になっていると思われる。67.7%という結果であった。() ・新型コロナウイルス感染症の影響で進路行事が中止となった。学校教育自己診断を行った11月には進路希望調査や進学説明会はまだ行っていないため56.9%であった。(-) ・新型コロナウイルス感染症の影響で思うように企画がすすまない中であったが、グローバルな経験のある地域人材、大学講師などにより、5回行うことができた。()
5 信頼される学校	<p>(1)家庭や地域との連携強化をすすめ、本校の教育活動への理解を促進するための広報活動の充実を図る。</p> <p>(2)教職員が、心身共に健康な状態で生徒と向き合うことができるよう、学校における働き方改革の取り組みをすすめる。</p>	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭との連絡は丁寧に行い、またメールマガジンにより迅速に情報を提供する。 ・webページの更新、学校説明会、公開授業、個別相談、学校訪問などにより広報を充実させる。 <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員間の情報共有と協力、業務の効率化、分掌間連携等を進め、長時間勤務を縮減する。 	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者向け学校教育自己診断「学校は教育方針をわかりやすく伝えている」80%以上 ・保護者向け学校教育自己診断「学校は教育内容の情報を提供する努力をしている」80%以上 <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の時間外労働時間を前年度以下とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭との連絡は担任を中心に丁寧に心がけた。多部制単位制のシステム、学年制との違いなど保護者にとって理解しづらいが多かったと思われるため、79.2%でも達成したと考える。() ・79.2%であった。上記同様と考える。() ・教職員の時間外労働時間は前年度より10%減少した。()